

2016 年 10 月 28 日～29 日

震災・復興とリスクマネジメント（ ） 国際都市神戸と世界の文化（ ） 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ（ ） グローバルサイエンスと拠点都市神戸（ ○ ） その他（ ）

第 2 回山陰海岸ジオパーク交流活動

[概要] 以下の内容で、2016 年度第 2 回ジオパーク交流活動を実施しました。

1 テーマ

神戸大学附属中等教育学校 SGH「グローバルサイエンスと拠点都市神戸」

山陰海岸ジオパークを活用した鳥取環境大学・鳥取県立岩美高等学校との交流プログラム

-多様な地形・地質・風土と人々の暮らし-神戸と岩美の花崗岩に着目して-

2 目的

2015 年 11 月 17 日、フランスのユネスコ本部で開催された第 38 回ユネスコ総会において、これまでユネスコの支援事業として行われてきた世界ジオパークネットワークの活動が「国際地質科学ジオパーク計画」として世界遺産と同じユネスコの正式事業となった。このような背景のもと、本県に位置する山陰海岸ジオパークの貴重な自然を活かし、以下の 3 点を達成することを目的とする。

- (1) フィールドワークを中心とした研究手法の基礎を修得する。
- (2) 鳥取環境大学・岩美高等学校と連携し、現地の大学生ならびに高校生と交流し、ともにジオパークに関する研究活動を行う。
- (3) 太平洋側の神戸と日本海側の岩美における気候・風土・歴史の違いを学ぶ。特に両地域に特徴的な「花崗岩」に着目し、地形・地質学的視点を養う。
- (4) 山陰海岸ジオパークの貴重な様々な資源について学ぶことを通して、地元「神戸」に対する郷土愛や誇りを醸成する。

特に本活動においては、上記(1)(2)(4)を達成することに重点を置く。

3 内容

(1)鳥取環境大学学生との交流活動

(2)山陰海岸ジオパーク域内（新温泉町春來地区）フィールドワーク

特に、山間集落における地域課題（高齢化、耕作放棄地、水田維持管理等）探究（地元の方へのヒアリング）を中心に



新温泉町の山陰海岸ジオパーク館を見学して、ジオパークについて学びました。



地図を片手に新温泉町内をフィールドワークしました。



温泉の源泉を発見しました。



新温泉町湯村温泉の源泉です。



山陰海岸ジオパークの恵みでもある海の幸を堪能しました。



新温泉町春來地区で、住民の方と交流しました。



春來地区内の金龍山萬福寺の住職さんから講話をいただきました。



春來神社で説明を受けています。



春來小学校（現公民館）を訪問しました。



春來地区名産のそばを堪能しました。

フィールドワークで感じたことを踏まえて、住民の方と地区が抱える4つのテーマごとにディスカッションをしました。

(獣害チーム)

フィールドワークで感じたことを踏まえて、住民の方と地区が抱える4つのテーマごとにディスカッションをしました。

(春來小学校活用チーム)

HP 記事 UP 用

4 年生 K くん

2 日間という前回よりも長い期間を使う事で、前回とは違う様々なことを学ぶことが出来た。1 日目には浜坂地区でのジオパーク館の見学やフィールドワークで温泉がどう利用されているかなどが学べたと思う。湯村温泉でも同様に、温泉街としての温泉の利用のされ方や、いかに温泉が多く出ているかというのを体感できた。

2 日目の春来集落では、初めて山間部の過疎地域の集落に入ったということもあり、とても興味深かった。その中で地域の特徴を生かした産業が栄えていたことも見る事が出来た反面、現在の過疎地域の生の声を聞くことが出来たり、自分の足で歩いて分かったことも多くあった。こういった機会は貴重なものだし、しっかりと学ぶことが出来たし、これからもこのジオパークの学習に関わって学んでいきたいと思う。

4 年生 T さん

今回の活動では、主に 3 つの学習成果がありました。1 つ目は、ジオパークであることでよりどれほど地域に影響を与えているかということです。ジオパークであることを宣伝することはできていましたが、その良さなどを詳しく勉強できる環境では無かったので、どのように伝えていくかが重要であり、課題だと思いました。2 つ目は、ジオパークや集落を実際に体験しその土地の良さを理解できたということです。その地域にあった提案を考えるいい体験となりました。3 つ目は、その土地の方の実際の声を聞くことで、今までにない考えや知識が得られたということです。普段よく耳にする獣害・後継者不足などの問題も実際に体験しているからこそ知っていることがあり、色々な知識を得られました。今後に活かせられ、ためとなる経験が多くできました。

5 年生 H さん

この活動の成果は、新温泉町での散策で、浜坂の砂州の地形や、人々の生活とともにある温泉を体感でき、地名の由来や、観光資源についても自分達で体感することが出来た。ジオパーク館では日本海形成の歴史、その場所で採れた岩石や砂等の自然環境を実際に触れて学習できた。湯村温泉街での活動では、温泉が観光資源としてだけでなく、地元の人々の生活資源としても使用されていることを知ることが出来た。前回と比べて、現地で大学生の方々、地域の方々とディスカッションを行うなど、たくさんの人々との関わりを持つことが出来た。次回の活動にも今回の活動を生かしてぜひ参加したいと思う。

5 年生 T くん

1 日目の浜坂散策では、予定を微調整することでジオパーク館での見学のみならず、浜坂温泉郷の資源に触れることができた。湯村温泉では、地域住民も観光客もこの地に古くから湧く荒湯の恩恵を受けているということを知ることができた。

2 日目の春来訪問では、公立鳥取環境大学の学生と、春来をフィールドワークし、この村の観光資源の有効活用について実際に村の人々と議論を交わした。特に私は、旧小学校を美術館とし、この地にゆかりのある出口龍憲画伯の龍の絵を展示するという計画の今後について提案をした。この議論を通し、「活性化したい住民」と「なかなか GO を出せない行政」の関係性を垣間見、今後の社会がこのような試みに対して寛容になり、住民たちの積極的な改革をサポートできるような体制が必要だと感じた。

